Biological Abstracts における 動物分類表の組立て —Biosystematic Index の構成とその検索実例—

宮 岸 朝 子*

渋谷 喜 雄**

BA にはどんな Index 類があるか？

Biological Abstracts (以下 BA) によって文献を検索する場合もっとも一般的な方法は BA に於ける件名索引である BASIC Index によって検索するのが一番普通のやり方であって、ほとんどこの方法以外には行われていないのが実状である。ところで実際には BA にはこの他にも Biosystematic Index と CROSS Index と呼ばれる 2 種類の Index がついており、これらの Index を用いていろんな角度から多面的に文献検索ができるようになっていることは周知の通りである。後者の 2 種類の Index は BA 独特のもので、その他の中心的な索引・抄録誌、例えば Index Medicus や Chemical Abstracts にはないものである。では BASIC Index を含めた上記の 3 種類の Index はそれぞれどういった違いがあるのか？ その区別は次のようにあてはめるとはつきりしてくる。

- ① BASIC Index…論題件名索引 (又はキーワード件名索引)
- ② Biosystematic Index…分類索引
- ③ CROSS Index…内容件名索引

このうち①と③は言葉で表現すれば同じように Subject Index (件名索引) と呼ばれるが、中味は全く趣を異にしたものである。①の方は著者自身が発表文献の論題に用いた用語のうち主テーマを表わす中心語をキーワード (Keyword) とし、そのワード (単語) から文献を検索するものであり、一方、③の方はいわゆる件名索引で、論文内容に盛込まれた主題から文献を検索するよう

になっている索引である。②の Biosystematic Index というのは一つの論文の中で扱われている動・植物等の学名から文献を検索するようになっている索引であるが、これについては次の項で詳述する。

このように BA で一つの論文を探索するには 3 通りの方法からできるようになっている。それにも拘らずこれまで BASIC Index による方法しか一般化しなかったのは、一つには他の 2 種類の Index の使用方法が一見複雑かつ面倒そうに思われること、さらにはその使用解説が充分に行われてこなかったことが二重にとっつき難い感じを与えてきた。第 2 には、この方がむしろ主な原因かもしれないが、BASIC Index だけでもある程度文献検索ができるのであえて他の 2 種類の Index を用いようとしなかった、などが考えられる。もし、第 2 の点が主原因で他の 2 種類の Index を用いていない場合は、常に検索洩れの危険性があるということは心にとめておいた方がよい。

このように BA の Index の種類とその性格そして BA による文献検索の実状をふまえた上で、この小論では BA の 3 種類の Index のうち、特に Biosystematic Index を取り上げ、この Index で用いられている動物分類表の和名対訳一覧表の作成を意図した。

Biosystematic Index とはどんな Index か？

前述したようにこの Index は一口にいえば BA の Index 類中「分類索引」としての機能をもった Index である。そしてこの場合の分類基準は NDC や UDC のように数字による分類ではなく、生物の学名 (Taxonomy) 別に分類されている。この学名というのが生物学者でないわれわれにとって非常に厄介なもので、通例

* Asako MIYAGISHI, 大阪大学附属図書館中之島分館

** Yoshio SHIBUYA, 神戸大学医学図書館

ラテン名又はギリシャ語のラテン読みにした学名が多く、日常耳慣れない言葉、しかもその多くは普通の英和、羅和辞典にもでてこない言葉によって分類されているので一層この Index を使用し難いものになっている面がある。例えば「ネズミ」を用いた実験データを収集しようという場合、「Rat」という言葉ではこの Index はひけない。Rat というのはあくまで通称であり俗称である。生物学上の学名は「Muridae」に属し、この学名の下に一連のネズミを扱った文献が分類されている。さらに厄介なのは一口にネズミといってもテンジクネズミ（通例、ギニアピッグといわれるもの）もあればキヌゲネズミ、トビネズミ、ポケットネズミもあるということに多種多様で、そのおのおのが別個の学名をもっている。Biosystematic Index ではネズミの属する齧歯目だけでも 29 種また鳥の綱では実に 32 種の学名分類に分れている。このように書くと『とてもつき合いきれない』とばかり初めからこの Index の使用を放棄するむきもあるかと思うが悲観するにはあたらない。これはもっとも極端な例を挙げたもので、しかもあくまで数字の上のことだけで、実際に医学研究者が実験対象とする可能性のある動物、したがって医学図書館のレファレンス・コーナーで日常目に触れるであろうと思われる動物ということになると全体の分類リスト中のごく一部に限定されてくるものと予測されるからである。Biosystematic Index は「生物の学名分類である」と前に述べたがこの生物の中をこの Index では次のような項目に分けている：

- Organisms (生物一般)
 - Microorganisms (微生物)
 - Viruses (ウイルス)
 - Bacteria (バクテリア)
 - Plantae (植物)
 - Animalia (動物)
 - Invertebrata (無脊椎動物)
 - Vertebrata (脊椎動物)

以上のうち、今回のこの和名対訳一覧表作成の対象としたのは Animalia (動物) のうちの Vertebrata (脊椎動物) 部門だけに限った。その理由は、附表の一覧表をみていただくと明らかなように、この一部門だけでも一覧表そのものがかなりの分量である上に、さらにいろんなケースを考えて相関索引もつけるとなると到底一度に全体の一覧表を作成することは不可能である。また、医学図書館で処理する文献調査依頼内容からみて一番頻度

の多いものという点からこの部門を最初に取り上げたものである。

このような限定にたった上で、次にその分類項目の取り方の精度について説明しておきたい。各種の動物図鑑を見ていただくとわかるように、どんな動物でも大中小項目に分けて 2 種類乃至 3 種類の学名分類を附与されている。これをテクニカルタームでは上位から順に 綱 (Class)→目 (Order)→科 (Family) と呼ぶ。参考までに綱の上は門 (Phylum)、さらにその上は界 (Kingdom) となる (科の下は属→種となるが Biosystematic Index 上では対象となっていないので省略)。例えばイヌの属する学名分類を界から科まで試みに全部書き出してみると次のようになる：

- Animalia (動物界)
 - Vertebrata (脊椎動物門)
 - Mammalia (哺乳綱)
 - Carnivora (食肉目)
 - Canidae (いぬ科)

しかし、Biosystematic Index 検索時に直接対象となるのは下段の二つ、目・科の名称で、Carnivora—Canidae がイヌの属する学名分類であり、イヌに関する文献はこの分類箇所からスクリーニングするのだということがわかっていけばよい。ここで取り上げた和名対訳一覧というのはこういう場合に補助ツールとして役立つように意図したものである。この Biosystematic Index は BA 各分冊本文の巻末に黄色頁に色分けしてついているが、綱・目・科の学名分類名が実際にどのような排列でまたどのような形になっているか、その例を示したのが図-1 である。まず第 1 列目と第 2 列目は各動物の学名分類の名称がくるが、1 列目は 2 列目より上位の分類名である。普通は綱の名称が第 1 列目で、目の名称が第 2 列目に排列されているが、哺乳綱 (Mammalia) の例にみるように、目の分類が多岐にわたるものは目の名種を第 1 列に科の名称を第 2 列目に排列しているものもある。学名分類はこの 2 列目までで、第 3 列目は件名への手掛りを示し、そして最後の第 4 列目は BA 本文の抄録ナンバーを指示している。このうち第 3 列目の件名はすべて英語の一語の省略形を用いているので、初めのうちはまごつくかも知れないが、この省略形の全体のリストは黄色頁の Biosystematic Index の一番前についている。その例を二、三挙げてみよう。

(例)

NERV PATH→Nervous System, Pathology

CV BV PATH→Cardiovascular System, Blood
Vessel Pathology

ここで Vertebrata (脊椎動物) 部門の分類全体を概観し、それと併せてその分類名の排列順について説明しておく必要がある。図-2 に示したように脊椎動物はまず大別して5つの綱に分類される。これらの5綱はそれぞれ下位の分類である目に細分され、哺乳綱のみはさらに各目の下に科名の分類名をもっている。分類名の前につけてある数字はこれらの分類名が Biosystematic Index 上に現われる排列順を示す。但、これらはあくまで排列順を見易くするために便宜上つけたものであって決して固有の番号ではない。実際上の目・科の分類名はもっとたくさんあるがここでは分類全体の構成を把握することが目的であるので適当に選択した(分類名全体のリストは附表を参照)。要は、この番号が示すようにその排列は決して学名分類のABC順排列になっていないということである。Pisces (魚綱) が脊椎動物部門の一番最初に来て、次に同一の魚綱に属する目分類名が三つあれば三つ、四つあれば四つ全部終ってから次の新しい綱である Amphibia (両棲綱) に移るといったような具合に排列されていることに注目してほしい。但、同一綱の中は次の分類単位である目名科名のABC順排列になっている。この図-2 の分類項目中、少くとも五つの綱分類の名称と排列順位は覚えておく必要がある。そうすれば大体迷わず目的の頁に到達できるがさもないと折角、和名対訳一覧で目指す動物の分類名がわかってもしも排列順がわからないために目的の頁を探すのにウロウロしかねない。

以上のように、この Index の性質を念頭において、図-1 に示した各列の読み取り方を練習してみよう。今、この図のうち任意の一行例えば抄録ナンバー #17507 をみると次のようになっている：

CARNIVORA CANIDAE AERO PHYSL 17507

まず CARNIVORA—CANIDAE を和名対訳一覧表でみると「食肉目—いぬ科」ということがわかる。次に Index 上3列目にあたる AERO PHYSL という件名は、前記省略表でみると、「Aero-Space and Under-water Biological Effects—Physiology, Medicine」というように書いてある。これらのことからこの抄録ナンバー #17507 の文献は「イヌを用いた実験で宇宙飛行または深海に於ける生物に対する影響を生理学的に論じた論文」であろうという推定がつく。そしてもしこれが検索者の求める文献であれば BA 抄録本文の #17507 によって論題著者掲載誌名などの書誌的データを知ることが

できるわけである。以上はあくまでもこの Index の読み方を各項目毎に説明するために図-1 から任意の一行を取り出したわけであるが、実際に文献検索をこの Index で行うにはこの任意の一行に到達するまでの過程が厄介なわけで説明も別の観点から補足しなければならない。そこで Biosystematic Index を用いて行った検索実例を各ステップ毎に分解して次の章で紹介する。

Biosystematic Index による検索例とその
結果

例題「マスの肝癌とその発癌物質—特に不飽和脂肪に関する文献」(註：BA v. 50 を使用)

Medical Terms : マス Trout

肝癌 Hepatoma

発癌物質 Carcinogen

不飽和脂肪 Unsaturated Lipid

第1ステップ 使用動物の該当する分類名をきめる

Biosystematic Index で文献を検索する場合まず調査事項の対象となっている動物は脊椎動物門のどの綱、どの目に属するか分類名を決定しなければならない。この例題で対象となっているのは「マス」である。この段階で、ここに取り上げた和名対訳一覧表を使用するわけであるがそれには二通りの方法がある。

- (1) 「マス」という個々の動物名から附表2動物名五十音索引によってひく
- (2) 附表1和名対訳脊椎動物分類一覧表によって一つ一つ拾い出す

どちらがより早いかという比較はいろんなケースで違うし、また使用者の熟練度によっても異なるので一概に言えないが、この Index を初めて使用するというような場合は(1)の方法を、ある程度経験を経て5つの綱分類の内容に通じ、個々の動物が大体どの綱に属するか一見してすぐ判断のつくようになれば(2)の方法をとるようになるであろう。(1)の方法による場合注意すべき点の一つある。それは附表2は個々の動物名の五十音からひく索引といっても総ての動物名をこの索引に網羅しているわけではない。不可能であるし、無意味でもある。例えば、魚類といった場合タイもあればイワシもありその種類は何千何百というものである。このような場合には個々の動物名からではなくこれら個々の動物名を包括した総称によってひくというのが原則である。例えばイボカエルとか、トノサマカエルといったカエルの分類名を決定しようという場合、五十音索引でイボカ

図-2 脊椎動物の分類排列順位

っとも中心テーマに近似するもの一つでよい。そうすると例題の中心テーマは「癌とその発癌物質」ということから上記3件名のうち3番目の件名がそのものズバリである。ところで先にも述べたように Biosystematic Index 上では件名のスペルは省略形をとっているので件名表の中から選定した件名の省略形を事前に省略表にあたって調べておいた方が Biosystematic Index の使用上便利である。

件名表上の件名

「NEOPLASMS AND NEOPLASTIC AGENTS
—Carcinogen & Carcinogenesis」

その省略形

「NEOPLM CARCN」

以上、第1ステップと第2ステップで検索すべき分類名とその件名が決定したあとは Biosystematic Index で該当する分類名、件名の抄録ナンバーを拾い出し抄録本文を見て求める文献が否か判定すればよいわけである。

第3ステップ 検索結果とその評価

例題では Biosystematic Index v. 50 (1969) の年間索引 (Annual Cumulative Index) により検索したが、この年間索引と半月刊分冊各巻の巻末に黄色頁についている索引では同一綱、同一目内の排列順が異りさらに同じ分冊索引でも、1970年以前のものと1971年以後のものでは排列順が違ってきている。図-3の(イ)年間索引の同一綱目内の排列は一次的には抄録本文の目次のところについている Section Headings の見出し順に Gene-

ral Biology→Methods Materials and Apparatus→Evolution……という具合に排列されているが Index 上にはこれらの Section Headings そのものは現われていない。一方、抄録本文巻末についている Biosystematic Index の分冊索引では同一綱・目内の排列はこれまでは抄録番号順排列 (図-3, ロ) であったが, 1971 年からは第 3 列目にあたる件名の A B C 順排列になっている (図-3, ハ)。

以上のことを念頭において, Vol. 50, 1969 年の年間索引で Screening すると, 次のように五つの文献がで

PISCES OSTEICHTHYES NEOPLM CARCN

2897

20028

31238

53714

81598

これを指定の抄録番号によって抄録本文をみるとこの 5 文献の内容は次のようになっている:

#2897 Ashley LM, et al

Dimethylnitrosamine-induced hepatic cell carcinoma in rainbow trout

J Nat Cancer Inst 41(2) 521~552, 1968

#20028 Sinnhuber RO, et al

Dietary factors and hepatoma in rainbow trout I. Aflatoxins in vegetable protein feedstuffs.

J Nat Cancer Inst 41(3) 711~8, 1968

#31238 Petrun AS, et al

Possibility of the formation of a carcinogenic substance 3,4-benzpyrene in fish smoked by means of an electric method

Vrach Delo 2, 93~5, 1966

#53714 Sinnhuber RO, et al

Dietary factors and hepatoma in rainbow trout II. Carcinogenesis by cyclopropanoid fatty acids and the effect of gossypol and altered lipids on aflatoxin-induced liver cancer

J Nat Cancer Inst 41(6) 1293~1301, 1968

#81598 Codegone ML

Evolution of the early hepatoma in rainbow trout Tumori 54(6) 419~425, 1966

Biosystematic Index だけの単独使用による検索の場合はこの 5 文献の内容が判明した段階で検索作業は一応終了したわけで, この 5 件をそのまま回答として扱ってもよいわけである。しかし, この 5 件がすべて検索目的に適合しているかどうかはまだ疑問が残る。その理由はその第 2 ステップで件名をきめる際「癌とその発癌物質」という例題の中心テーマにあたる件名しか採用しなかった

PISCES	OSTEICHTHYES	INSTITUTIONS	61889
PISCES	OSTEICHTHYES	INSTITUTIONS	73142
PISCES	OSTEICHTHYES	MUSEUMS	11277
PISCES	OSTEICHTHYES	MUSEUMS	67529
PISCES	OSTEICHTHYES	MUSEUMS	84404
PISCES	OSTEICHTHYES	MUSEUMS	84405
PISCES	OSTEICHTHYES	MUSEUMS	90013
PISCES	OSTEICHTHYES	CONSERVATION	16901
PISCES	OSTEICHTHYES	CONSERVATION	67539
PISCES	OSTEICHTHYES	CONSERVATION	73149
PISCES	OSTEICHTHYES	CONSERVATION	118145
PISCES	OSTEICHTHYES	CONSERVATION	118148
PISCES	OSTEICHTHYES	CONSERVATION	118154
PISCES	OSTEICHTHYES	CONSERVATION	118160
PISCES	OSTEICHTHYES	CONSERVATION	123766
PISCES	OSTEICHTHYES	CONSERVATION	123769
PISCES	OSTEICHTHYES	CONSERVATION	129398
PISCES	OSTEICHTHYES	EDUCATION	90039
PISCES	OSTEICHTHYES	NATURE STUDY	78

(イ) 年間索引 (V. 50, 1969)

目次の Section 別排列

PISCES	OSTEICHTHYES	HISTORY	129489
PISCES	OSTEICHTHYES	HISTORY	129491
PISCES	OSTEICHTHYES	GENET ANIMAL	129632
PISCES	OSTEICHTHYES	GENET ANIMAL	129651
PISCES	OSTEICHTHYES	RAD EFFECTS	129761
PISCES	OSTEICHTHYES	RAD EFFECTS	129814
PISCES	OSTEICHTHYES	ECOL GEN	129877
PISCES	OSTEICHTHYES	LIMNOLOGY	129962
PISCES	OSTEICHTHYES	LIMNOLOGY	129964
PISCES	OSTEICHTHYES	WILDLIFE AQU	129970
PISCES	OSTEICHTHYES	WILDLIFE AQU	129971
PISCES	OSTEICHTHYES	WILDLIFE AQU	129972
PISCES	OSTEICHTHYES	WILDLIFE AQU	129975
PISCES	OSTEICHTHYES	WILDLIFE AQU	129976
PISCES	OSTEICHTHYES	WILDLIFE AQU	129977
PISCES	OSTEICHTHYES	WILDLIFE AQU	129978
PISCES	OSTEICHTHYES	WILDLIFE AQU	129979
PISCES	OSTEICHTHYES	WILDLIFE AQU	129982
PISCES	OSTEICHTHYES	WILDLIFE AQU	129983

(ロ) 分冊索引 (V. 50, 1969)

抄録番号順排列

PISCES	OSTEICHTHYES	AN PROD FEED	207
PISCES	OSTEICHTHYES	AN PROD FEED	225
PISCES	OSTEICHTHYES	ANAT REGEN	179
PISCES	OSTEICHTHYES	ANNELID SYST	2552
PISCES	OSTEICHTHYES	AVES SYST	1002
PISCES	OSTEICHTHYES	BEHAV ANIMAL	266
PISCES	OSTEICHTHYES	BEHAV CONDIT	272
PISCES	OSTEICHTHYES	BLOOD CELLS	446
PISCES	OSTEICHTHYES	BLOOD CELLS	448
PISCES	OSTEICHTHYES	BLOOD CELLS	449
PISCES	OSTEICHTHYES	BLOOD CELLS	450
PISCES	OSTEICHTHYES	BONE PHYSL	558
PISCES	OSTEICHTHYES	CV PHYSL	941
PISCES	OSTEICHTHYES	DEV BIO DESC	1155
PISCES	OSTEICHTHYES	ECOL ANIMAL	1236
PISCES	OSTEICHTHYES	ENDOCR PANCR	1617
PISCES	OSTEICHTHYES	ENDOCR PANCR	1632
PISCES	OSTEICHTHYES	ENDOCR PIT	1656
PISCES	OSTEICHTHYES	ENDOCR PIT	1668

(ハ) 分冊索引 (V. 52, 1971)

件名の A B C 順排列

図-3 排列順の比較

ので、その結果として検索された上記5件はなるほどこの件名については適合しても、それが果して癌発生の臓器部位が肝臓(つまり肝癌)であるか否か、また発癌物質中 Lipid を扱った文献であるか否かといった点については未解決として残っているからである。前掲の5件をざっと見ただけでも #31238 の文献は肝癌 (Hepatoma) か否か論題では不明であるし、また #81598 の文献は「マスの肝癌」に関するものであることは論題でわかるが、Lipid を扱ったものであるかどうかまでは判然としない。この点をチェックするにはどうするか? ここであるいは、第2ステップで採用しなかった他の二つの件名、

- 1) BIOCHEMISTRY—Biochemical Studies—Lipids
- 2) DIGESTIVE SYSTEM—Pathology

でも一度それぞれの件名ごとに Biosystematic Index を Screening するという方法を思いつかれるかもしれないが、この Index ではその方法はとれない。この Index では一文献は中心テーマと見做されるただ一つの件名の下にしか索引されていない(この点は他の2種類の Index, BASIC Index や CROSS Index と異なる)。唯一の方法は、CROSS Index と併用使用することによりこの問題は解決することができ、検索結果もより精度の高いものになる。

第4ステップ CROSS Index との併用使用

CROSS Index そのものの説明はこの小論では対象外なので省略する。要は、一定の件名表(Biosystematic Index の件名と共通)により文献をグループ化し各件名の下に該当する抄録ナンバーを排列している件名索引である。この Index を Biosystematic Index と併用する方法としては、さきに Biosystematic Index で Screening した5件の抄録ナンバーを、CROSS Index の当該件名でも一度 Screening するのである。この際に用いる当該件名とは何かというと、第2ステップの「件名の決定」の際、Biosystematic Index で採用しなかった二つの件名、つまり前述した

- 1) BIOCHEMISY—Biochemical Studies—Lipids
- 2) DIGESTIVE SYSTEM—Pathology

を CROSS Index で採用し Screening するのである。これは Biosystematic Index も CROSS Index も同一の件名表を共通して用いるのでこのような互換性が可能になる。要するに、この二つの Index を併用使用する手順は Biosystematic Index で粗目に Screening して文献の数を或程度限定し、その出た結果を今度は CRO-

SS Index で二度目のフルイにかけてより文献内容を検索目的に近い、精度の高い文献だけが残るように仕上げるわけである。

例題の場合、まず第3ステップで検索した5件、

- # 2897
- # 20028
- # 31238
- # 53714
- # 81598

を最初に CROSS Index の BIOCHMISTRY—Biochemical Studies—Lipids の件名の下に同一の抄録ナンバーがあるかどうか matching を行う。その結果上記5件のうち #53714 の抄録ナンバーだけがマッチした。つまりここまでの段階で、#53714 の文献は「硬骨魚類 (Osteichthyes) の発癌物質、特に Lipid による」ものであり、他の4件は「Lipid 以外の発癌物質」についての文献であるという判定が成り立つ。

次に、癌の発生する臓器部位についての Screening がまだ行われていないので、上記5件を更に CROSS Index の DIGESTIVE SYSTEM—Pathology の件名で同様に matching を行う。その結果、#31238 を除いた他の4件はすべてマッチした。つまり、#31238 の文献は魚の発癌物質に関する文献ではあるが癌発生の部位は消化器系以外の臓器で例題の要求するものに合致しないという判定が得られる。そして最後に、CROSS Index の両方の件名にマッチした #53714 の文献だけがこの例題の要求している文献であるということになる。

一度でも文献調査に実際にタッチしたことのある人はすでに経験済のことと思うが、IM であれ EM であれ、各種の索引誌で検索した結果が果して依頼者の目的に合致しているかどうか常に不安がつきまとう。そして、概ね検索した文献の論題から図書館員の判断で取捨選択して渡すか、あるいは、依頼者自身に選択を一任するかであるが、後者の場合であると徒らに検索文献数のみ多くとも、依頼者の目的に本当に合致した文献数ということになると適合率が落ちるという懸念がある。このような場合上述したように Biosystematic Index と CROSS Index を併用使用することによって、医学知識のない図書館参考係でも BA の各種 Index の使用方法さえ熟知していればかなり精度の高い文献検索が可能である。蛇足として附言すれば、索引誌類の使用法に精通しているが、医学知識のない図書館員と、医学知識はあっても、索引誌類の使用に不慣れた研究者のどちらがより精度の

高い検索ができるか、私はむしろ前者に軍配をあげる。それは一つには最近の索引・抄録誌は医学知識なしにいろいろな角度から機械的に検索できるように高度に組織化されてきているからである。

以上、この小論では BA の Biosystematic Index の使用ガイドとしてまず動物分類表の和名対訳一覧表を作成しその使用方法と共に、この一覧表を用いた検索実例を紹介した。これは BA 全体の使用方法解説からいえばほんの一部分にすぎず、また Biosystematic Index それ自体からいっても Microorganisms, Viruses, Bacteria, Plantae 等の和名対訳が未完成である。これに残された部分については更に適任者が発表されることを待つものである。

最後に附表について一言つけ加えておきたい。

附表 1, 和名対訳脊椎動物分類一覧表というのは Biosystematic Index に出てくる脊椎動物の学名分類の日本語名を各種動物図鑑によって調査し一覧表にまとめたものである。これら、学名の命名法というものはそれだけでも独立した学問体系を形成するほど複雑なもので、各図鑑によって必ずしも該当する和名が一致していな

い。その上、BA で採用している綱・目の分け方が図鑑と違ってより細くなっていることと、BA では現存しない化石動物も扱っているのも、これらの該当和名をつきとめるのに苦労があった。排列は Biosystematic Index の Vol. 50, 1969 の年間索引に排列されている順によった。

附表 2, 動物名五十音索引の方は、動物の学名ではなく、通称・俗称から学名分類をひくようにした索引である。

参 考 資 料

- 1) 内田清之助他：原色動物大図鑑 第 1 巻，北隆館，1961
- 2) 内田清之助他：日本動物図鑑，北隆館，1949
- 3) 内田 享：動物系統分類学，中山書店，1963，9 巻上，中 10 巻上，下
- 4) 岡田 要：新日本動物図鑑，下巻，北隆館，1960
- 5) 標準学術用語辞典編集委員会：標準学術用語辞典，動物学編，誠文堂新光社，1963
- 6) 山田常雄他：岩波生物学辞典，岩波書店，1960

ステッドマン医学辞典

全訂増補第22版／今夏発売

22nd Edition of STEDMAN'S MEDICAL DICTIONARY

A Vocabulary of Medicine and Its Allied
Sciences, with Pronunciations and Derivations
(Asian Edition printed in U.S.A.)

1972. 17×26cm., Approx. 1,950 pages. 定価 ¥4,500

広範かつ斬新な内容で定評のあるステッドマン医学辞典が、最近の研究成果を網羅して 6 年ぶりに全面的に改訂増補され、第 22 版が今夏出版されます。

この第 22 版は、7,200 以上の新項目の収録、旧版の 3/4 以上の完全な改訂、さらに編集面での電算機の使用など、Stedman 60 余年の歴史の中でも画期的な改訂です。

(The Williams & Wilkins, Baltimore／日本総代理店 丸善)

附表 1 和名対訳背椎動物分類一覧表

綱 ・ 目 名	目 ・ 科 名	俗称 及び 文献中に現われる動物実例
Pisces 魚綱	Agnatha 無顎目	ウナギ・メクラウナギ ヤツメウナギ
	Chondrichthyes 軟骨目	サメ・エイ
	Osteichthyes 硬骨目	堅い骨を持つ大部分の魚
	Placodermi 板皮目	キタノカマッカ
Amphibia 両棲綱	Apoda 無足目	裸ヘビ
	Caudata 有尾目	イモリ・サンショウウオ
	Salientia 無尾目	カエル・食用カエル
Reptilia 爬虫綱	Chelonia かめ目	カメ類
	Crocodilia わに目	ワニ類
	Rhynchocephal 喙頭目 <small>たくとう</small>	ムカシトカゲ
	Sauria とかげ目	トカゲ・ヤモリ
	Serpentes へび目	へび類
Aves 鳥綱	Aepyornithiformes 隆鳥目	隆鳥・オオ化石鳥 オオウミガラス・ドウドウ鳥
		ハクチョウ・ガン・カモ ガチョウ・アヒル
	Anseriformes がんかも目	ハチドリ
	Apodiformes 貧足目	キウイ
	Apterygidae きうい目	始祖鳥
	Archaeopterygiformes 始祖鳥目	ヨタカ
	Caprimulgidae よたか目	ヒクイドリ
	Casuariidae ひくいどり目	チドリ
	Charadriidae ちどり目	コウノトリ・トキ
	Ciconiiformes こうのとり目	ネズミドリ
	Coliiformes ねずみどり目	ハト
	Columbiformes はと目	ブッポウソウ
	Coraciiformes 仏法僧目	ホトトギス・カツコウ
	Cuculiformes 杜鵑目	恐鳥
	Dinornithidae 恐鳥目	ハヤブサ・ワシ・タカ・トビ
	Falconiformes わしたか目	

綱 ・ 目 名	目 ・ 科 名	俗称 及び 文献中に現われる動物実例
Aves (Continued)	Galliformes 鶉鷄目 <small>じゅんけい</small>	キジ・ライチョウ・ニワトリ クジャク・シチメンチョウ
	Gaviiformes かもめ目	カモメ
	Gruiformes つる目	ツル
	Hesperornithidae たそがれどり目	タソガレドリ
	Ichthyornithidae 魚鳥目	魚鳥
	Passeriformes 燕雀目 <small>えんじゃく</small>	カラス・九官鳥・スズメ
		ヒバリ・モズ・ウグイス
		ツバメ
	Pelecanidae がらんちょう目	ペリカン
	Piciformes きつつき目	キツツキ
	Podicipedidae かいつぶり目	カイツブリ
	Procellariidae うみつばめ目	ウミツバメ
	Psittacidae おうむ目	オウム・セキセイインコ
	Rheiformes アメリカだちょう目	アメリカダチョウ (レア)
	Spheniscidae 人鳥目	ペンギン
	Strigiformes ふくろう目	フクロウ・コノハヅク
	Struthionidae だちょう目	ダチョウ
	Tinamiformes しぎだちょう目	シギダチョウ
	Trogoniformes 咬嘴鳥目	コウシ鳥
Mammalia 哺乳綱		
Artiodactyla 偶蹄目	Bovidae うし科	ウシ・ヤギ・ヒツジ・
		カモシカ
	Camelidae らくだ科	ラクダ
	Cervidae しか科	シカ
	Giraffidae きりん科	キリン
	Hippopotamidae かば科	カバ
	Suidae いのしし科	イノシシ・ブタ
	Tayassuidae アメリカいのしし科	アメリカイノシシ
Astrapotheria 雷獣目	Tragulidae まめじか科	マメジカ
Carnivora 食肉目	Canidae いぬ科	イヌ・オオカミ・キツネ・
		ヤマイヌ・タヌキ

綱・目名	目・科名	俗称 及び 文献中に現われる動物実例
Carnivora (Continued)	Felidae ねこ科	ネコ・ライオン・トラ・ヒョウ
	Hyaenidae たてがみいぬ科	ハイエナ
	Mustelidae いたち	イタチ・アナグマ・テン・スカンク・カワウソ
	Procyonidae あらいぐま科	アライグマ・パンダ
	Ursidae くま科	クマ
	Viverridae じゃこうねこ科	マングウス・ジャコウネコ
Cetacea 鯨目	Balaenidae セミくじら科	セミクジラ
	Balaenopteridae ながすくじら科	ナガスクジラ
	Delphinidae いるか科	マイルカ
	Eschrichtidae こくじら科	コクジラ
	Monodontidae いっかく科	イッカク
	Physeteridae まっこうくじら科	マッコウクジラ
	Platanistidae かわいるか科	カワイルカ
	Ziphiidae あかぼうしくじら科	アカボウシクジラ
Chiroptera 翼手目	Desmodontidae ちすいこうもり科	チスイコウモリ
	Emballonuridae さしおこうもり科	サシオコウモリ
	Hipposideridae かぐらこうもり科	カグラコウモリ
	Megadermatidae あらこうもり科	アラコウモリ
	Molossidae おおみみこうもり科	オオミミコウモリ
	Natalidae なたり科	ナタリコウモリ
	Noctilionidae うおくいこうもり科	ウオクイコウモリ
	Nycteridae みぞこうもり科	ミゾコウモリ
	Phyllostomatidae へらこうもり科	ヘラコウモリ
	Pteropodidae おおこうもり科	オオコウモリ
	Rhinolophidae きくがしらこうもり科	キクガシラコウモリ
	Rhinopomatidae おながこうもり科	オナガコウモリ
	Vespertilionidae ひなこうもり科	ヒナコウモリ
Condylarthra 髀節目		
Dermoptera 皮翼目	Cynocephalidae ひよけざる科	ヒヨケザル
Edentata 貧齒目	Bradypodidae なまけもの科	ナマケモノ
	Dasypodidae きうよ科	アルマジロ

綱・目名	目・科名	俗称 及び 文献中に現われる動物実例
Edentata (Continued)	Myrmecophagidae ありくい科	アリクイ
Hyracoidea 蹄兔目	Procaviidae いわだぬき科	イワダヌキ(ヒズメウサギ)
Insectivora 食虫目	Chrysochloridae きんもぐら科	キンモグラ
	Erinaceidae はりねずみ科	ハリネズミ
	Macroscelididae とびじねずみ科	トビジネズミ
	Potamogalidae かろうそじねずみ科	カワウソジネズミ
	Solenodontidae みぞばじねずみ科	ミゾバジネズミ
	Soricidae とがりねずみ科	トガリネズミ
	Talpidae もぐら科	モグラ
	Tenrecidae おなしじねずみ	オナシジネズミ
Lagomorpha 兎形目	Leporidae うさぎ科	ウサギ
	Ochotonidae なきうさぎ科	ナキウサギ
Litopterna 滑距目		
Marsupialia 有袋目	Caenolestidae ふくろじねずみ科	フクロジネズミ
	Dasyuridae ふくろねこ科	フクロネコ
	Didelphidae ふくろねずみ科	フクロネズミ・バージニア
		オッポサム・コモリネズミ
	Macropodidae かんがる一科	カンガルー・オオカンガルー
	Myrmecobiidae ふくろありくい科	フクロアリクイ
	Notoryctidae ふくろもぐら科	フクロモグラ
	Peramelidae ふくろうさぎ科	フクロウサギ
	Phalangeridae ゆびむすび科	ユビムスビ・キノボリフク
		ログマ(コアラ)
	Phascalomidae ふくろぐまもどき	フクログマモドキ
Monotremata 一穴目	Ornithorhynchus かものはし科	カモノハシ
	Tachyglossidae はりもぐら科	ハリモグラ
Multituberculata 多丘歯目		
Notoungulata 南蹄目		
Pantodonta 汎歯目		
Pantotheria 全獣目		
Perissodactyla 奇蹄目	Equidae うま科	ウマ・ロバ
	Rhinocerotidae さい科	サイ

綱・目名	目・科名	俗称及び文献中に現われる動物実例
Perissodactyla (Continued)	Tapiridae バク科	バク
Pholidota 有鱗目	Manidae センザンこう科	センザンコウ
Pinnipedia ひれあし目	Odobenidae セいうち科	セイウチ
	Otariidae あしか科	アシカ・オットセイ
	Phocidae あざらし科	アザラシ
Primates 霊長目	Callithricidae きぬざる科	キヌザル
	Cebidae かつらざる科	カツラザル
	Cercopithecidae さる科	サル・オナガザル・
		アカゲザル・マントヒヒ
	Daubentoniidae ゆびざる科	ユビザル
	Hominidae ひと科	ヒト
	Indridae いんどり科	インドリ(アギトザル)
	Lemuridae きつねざる科	キツネザル
	Lorisidae のろまざる科	ノロマザル(ドウケザル)
	Pongidae しょうじょう科	チンパンジー・テナガザル
		ゴリラ
	Tarsidae めがねざる科	メガネザル
	Tupaiidae りすもどき科	ツバイ(リスモドキ)
Proboscidea 長鼻目	Elephantidae ぞう科	ゾウ
Rodentia 齧歯目	Abrocomidae ちんちらねずみ科	チンチラネズミ
	Anomaluridae うろこおりす科	モモンガ・ムササビ
	Aplodontiidae やまビーバー科	ヤマビーバー
	Bathyergidae ばちえるぐす科	アフリカモグラネズミ
	Capromyidae かぶろみす科	ニュウトリア・カイリネズミ
	Castoridae びーばー科	ビーバー
	Caviidae てんじくねずみ科	モルモット・テンジクネズミ・ギニアピッグ
	Chinchillidae ちんちら科	チンチラ(ケイトネズミ)
	Cricetidae きぬげねずみ科	キヌゲネズミ・コットンラット・スナネズミ・ハタネズミ
		ミ
	Ctenodactylidae くてのだくているす科	ハムスター

綱・目名	目・科名	俗称及び文献中に現われる動物実例
Rodentia (Continued)	Ctenomyidae	くてのみす科 ツコツコ
	Dasyproctidae	あぐーち科 アグーチ・オオテンジクネズミ
	Dipodidae	とびねずみ科 トビネズミ
	Echimyidae	えきみす科 ヤマアラシネズミ
	Erethizontidae	きのぼりまやあらし科 キノボリヤマアラシ
	Geomyidae	ほりねずみ科 ホリネズミ
	Gliridae	やまね科 ヤマネ
	Heteromyidae	ぼけつとねずみ科 ポケットネズミ
	Hydrochoeridae	かびばら科 カピバラ
	Hystriidae	やまあらし科 ヤマアラシ
	Muridae	ねずみ科 ネズミ・マウス・ハツカネズミ・ラット
	Octodontidae	おくとどん科 オクトドン
	Pedetidae	とびうさぎ科 トビウサギ
	Rhizomyidae	たけねずみ科 タケネズミ・デブネズミ
	Sciuridae	りす科 リス
	Seleviniidae	せれびにあ科 セレビニア
	Spalacidae	もぐらねずみ科 モグラネズミ
	Thryonomyidae	アフリカたけねずみ科 アフリカタケネズミ
	Zapodidae	おながねずみ科 オナガネズミ
Sirenia 海牛目	Dugongidae	じゅごん科 ジュゴン・人魚
	Trichechidae	かいぎゅう科 海牛
Symmetrodonta 相称歯目		
Tillodontia 欠歯目		
Triconodontia 三丘歯目		
Tubulidentata 常節目	Orycteropodidae	つちふた科 アフリカアリクイ

附表 2 動物名五十音索引

	動 物 名	(綱・目 名)	(目・科 名)
ア	アカゲザル	Primates	Cercopithecidae
	アカボウシクジラ	Cetacea	Ziphiidae
	アギトザル	Primates	Indridae
	アグーチ	Rodentia	Dasyproctidae
	アザラシ	Pinnipedia	Phocidae
	アシカ	Pinnipedia	Otariidae
	アヒル	Aves	Anseriformes
	アフリカアリクイ	Tubulidentata	Orycteropodidae
	アメリカイノシシ	Artiodactyla	Tayassuidae
	アメリカダチョウ	Aves	Rheiformes
	アフリカタケネズミ	Rodentia	Thryonomyidae
	アフリカモグラネズミ	Rodentia	Bathyergidae
	アライグマ	Carnivora	Procyonidae
	アラコウモリ	Chiroptera	Megadermatidae
	アリクイ	Edentata	Myrmecophagidae
	アルマジロ	Edentata	Dasypodidae
イ	イタチ	Carnivora	Mustelidae
	イッカク	Cetacea	Monodontidae
	イヌ	Carnivora	Canidae
	イノシシ	Artiodactyla	Suidae
	イモリ	Amphibia	Caudata
	イルカ	Cetacea	Delphinidae
	イワダヌキ	Hyracoidea	Procaviidae
	インドリ	Primates	Indridae
ウ	ウオクイコウモリ	Chiroptera	Megadermatidae
	ウグイス	Aves	Passeriformes
	ウサギ	Lagomorpha	Leporidae
	ウサギザル	Primates	Cebidae

	動 物 名	(綱・目名)	(目・科名)
ウ	ウシ	Artiodactyla	Bovidae
	ウナギ	Pisces	Agnatha
	ウマ	Perissodactyla	Equidae
	ウミツバメ	Aves	Procellariidae
	ウロコオリス	Rodentia	Anomaluridae
エ	エイ	Pisces	Chondrichthyes
オ	オウム	Aves	Psittacidae
	オオアリクイ	Edentata	Myrmecophagidae
	オオウミガラス	Aves	Aepyornithiformes
	オオ化石鳥	Aves	Aepyornithiformes
	オオカミ	Carnivora	Canidae
	オオカンガルー	Marsupialia	Macropodidae
	オオコウモリ	Chiroptera	Pteropodidae
	オオテンジクネズミ	Rodentia	Dasyproctidae
	オオミコウモリ	Chiroptera	Molossidae
	オットセイ	Pinnipedia	Otariidae
	オナガコウモリ	Chiroptera	Rhinopomatidae
	オナガザル	Primates	Cercopithecidae
	オナガネズミ	Rodentia	Zapodidae
	オナシジネズミ	Insectivora	Tenrecidae
	オマキザル	Primates	Cebidae
	オランウータン	Primates	Pongidae
カ	カイギュウ	Sirenia	Trichechidae
	カイツブリ	Aves	Podicipedidae
	カイリ	Rodentia	Castoridae
	カイリネズミ	Rodentia	Capromyidae
	カエル	Amphibia	Salientia
	カグラコウモリ	Chiroptera	Hipposideridae
	ガチョウ	Aves	Anseriformes

	動 物 名	(綱・目名)	(目・科名)
カ	カツラザル	Primates	Cebidae
	カツコウ	Aves	Cuculiformes
	カナダヤマアラシ	Rodentia	Erethizontidae
	カニクイザル	Primates	Cercopithecidae
	カバ	Artiodactyla	Hippopotamidae
	カピバラ	Rodentia	Hydrochoeridae
	カメ	Reptilia	Chelonia
	カモ	Aves	Anseriformes
	カモシカ	Artiodactyla	Bovidae
	カモノハシ	Monotremata	Ornithorhynchus
	カモメ	Aves	Gaviiformes
	カラス	Aves	Passeriformes
	カワイルカ	Cetacea	Platanistidae
	カワウソ	Carnivora	Mustelidae
	カワウソジネツミ	Insectivora	Potamogalidae
	ガン	Aves	Anseriformes
	カンガルー	Marsupialia	Macropodidae
	カンムリヤマアラシ	Rodentia	Hystriidae
キ	キウイ	Aves	Apterygidae
	キウヨ	Edentata	Dasypodidae
	キクガシラコウモリ	Chiroptera	Rhinolophidae
	キジ	Aves	Galliformes
	キタノカマツカ	Pisces	Placodermi
	キツツキ	Aves	Piciformes
	キツネ	Carnivora	Canidae
	キツネザル	Primates	Lemuridae
	ギニアビック	Rodentia	Caviidae
	キヌゲネズミ	Rodentia	Cricetidae
	キヌザル	Primates	Callithricidae
	キノボリフクログマ	Marsupialia	Phalangeridae
	キノボリヤマアラシ	Rodentia	Erethizontidae

	動 物 名	(綱・目名)	(目・科名)
キ	九官鳥 恐鳥 魚鳥 魚類 キリン キンモグラ	Aves Aves Aves Pisces Artiodactyla Insectivora	Passeriformes Dinornithidae Ichthyornithidae Osteichthyes (硬い骨をもつ大部分の魚全部) Giraffidae Chrysochloridae
ク	クジャク クテノグクティルス クマ クモザル	Aves Rodentia Carnivora Primates	Galliformes Ctenodactylidae Ursidae Cebidae
ケ	ケイトネズミ	Rodentia	Chinchillidae
コ	コアラ 咬嘴鳥 コウノトリ コクジラ コットンラット コノハズリ コモリネズミ ゴリラ	Marsupialia Aves Aves Cetacea Rodentia Aves Marsupialia Primates	Phalangeridae Trogoniformes Ciconiiformes Eschrichtidae Cricetidae Strigiformes Didelphidae Pongidae
サ	サイ サカナ サシオコウモリ サメ サル サンショウウオ	Perissodactyla → 魚類をみよ Chiroptera Pisces Primates Amphibia	Rhinocerotidae Emballonuridae Chondrichthyes Cercopithecidae Caudata
シ	シカ シギダチョウ	Artiodactyla Aves	Cervidae Tinamiformes

	動 物 名	(綱・目名)	(目・科名)
シ	始祖鳥	Aves	Archaeopterygiformes
	シチメンチョウ	Aves	Galliformes
	ジャイアント・ハムスター	Rodentia	Cricetidae
	ジャコウネコ	Carnivora	Viverridae
	ジュゴン	Sirenia	Dugongidae
	食用ガエル	Amphibia	Salientia
ス	スカンク	Carnivora	Mustelidae
	スズメ	Aves	Passeriformes
	スナネズミ	Rodentia	Cricetidae
セ	セイウチ	Pinnipedia	Odobenidae
	セキセイインコ	Aves	Psittacidae
	セミクジラ	Cetacea	Balaenidae
	セレビニア	Rodentia	Seleviniidae
	センザンコウ	Pholidota	Manidae
ソ	ゾウ	Proboscidea	Elephantidae
タ	タイワンザル	Primates	Cercopithecidae
	タカ	Aves	Falconiformes
	タケネズミ	Rodentia	Rhizomyidae
	タソガレドリ	Aves	Hesperornithidae
	ダチョウ	Aves	Struthionidae
	タヌキ	Carnivora	Canidae
チ	チスイコウモリ	Chiroptera	Desmodontidae
	チドリ	Aves	Charadriidae
	チンチョロ	Rodentia	Chinchillidae
	チンチラネズミ	Rodentia	Abrocomidae
	チンパンジー	Primates	Pongidae

	動 物 名	(綱・目 名)	(目・科 名)
ツ	ツコツコ ツチブタ ツバメ ツパイ ツル	Rodentia Tubulidentata Aves Primates Aves	Ctenomyidae Orycteropodidae Passeriformes Tupaiidae Gruiformes
テ	テナガザル テン テンジクネズミ	Primates Carnivora Rodentia	Pongidae Mustelidae Caviidae
ト	ドウケザル ドウドウ鳥 トカゲ トガリネズミ トキ トナカイ トビ トビウサギ トビジネズミ トビネズミ ドブネズミ トラ	Primates Aves Reptilia Insectivora Aves Artiodactyla Aves Rodentia Insectivora Rodentia Rodentia Carnivora	Lorisidae Aepyornithiformes Sauria Soricidae Ciconiiformes Cervidae Falconiformes Pedetidae Macroscelididae Dipodidae Rhizomyidae Felidae
ナ	ナガスクジラ ナキウサギ ナマケモノ	Cetacea Lagomorpha Edentata	Balaenopteridae Ochotonidae Bradypodidae
ニ	ニュウトリア ニワトリ ニンギョ	Rodentia Aves Sirenia	Capromyidae Galliformes Dugongidae
ネ	ネコ	Carnivora	Felidae

	動 物 名	(綱・目名)	(目・科名)
ネ	ネズミ	Rodentia	Muridae
	ネズミドリ	Aves	Coliiformes
	ネズミカンガルー	Rodentia	Heteromyidae
ノ	ノロマザル	Primates	Lorisidae
ハ	ハイエナ	Carnivora	Hyaenidae
	バク	Perissodactyla	Tapiridae
	ハクチョウ	Aves	Anseriformes
	裸へビ	Amphibia	Apoda
	ハタネズミ	Rodentia	Cricetidae
	ハチドリ	Aves	Apodiformes
	バージニアオポッサム	Marsupialia	Didelphidae
	ハツカネズミ	Rodentia	Muridae
	ハト	Aves	Columbiformes
	ハムスター	Rodentia	Ctenodactylidae
	ハリネズミ	Insectivora	Erinaceidae
	ハリモグラ	Monotremata	Tachyglossidae
	ハヤブサ	Aves	Falconiformes
	パンダ	Carnivora	Procyonidae
ヒ	ヒクイドリ	Aves	Casuariidae
	ヒズメウサギ	Hyracoidea	Procaviidae
	ヒツジ	Artiodactyla	Bovidae
	ヒト	Primates	Hominidae
	ヒナコウモリ	Chiroptera	Vespertilionidae
	ビーバー	Rodentia	Castoridae
	ヒバリ	Aves	Passeriformes
	ヒヒ	→ マントヒヒをみよ	
	ヒョウ	Carnivora	Felidae
	ヒョケザル	Dermoptera	Cynocephalidae

	動 物 名	(綱・目名)	(目・科名)
フ	フクロアリクイ	Marsupialia	Myrmecobiidae
	フクロウ	Aves	Strigiformes
	フクロウサギ	Marsupialia	Peramelidae
	フクログマモドキ	Marsupialia	Phascolomidae
	フクロジネズミ	Marsupialia	Caenolestidae
	フクロネコ	Marsupialia	Dasyuridae
	フクロネズミ	Marsupialia	Didelphidae
	フクロモグラ	Marsupialia	Notoryctidae
	ブタ	Artiodactyla	Suidae
	ブッポウソウ	Aves	Coraciiformes
へ	ヘビ	Reptilia	Serpentes
	ヘラコウモリ	Chiroptera	Phyllostomatidae
	ペリカン	Aves	Pelecanidae
	ペンギン	Aves	Spheniscidae
ホ	ポケットネズミ	Rodentia	Heteromyidae
	ホトトギス	Aves	Cuculiformes
	ホリネズミ	Rodentia	Geomyidae
マ	マイルカ	Cetacea	Delphinidae
	マウス	Rodentia	Muridae
	マッコウクジラ	Cetacea	Physeteridae
	マメジカ	Artiodactyla	Tragulidae
	マングウス	Carnivora	Viverridae
	マントヒヒ	Primates	Cercopithecidae
ミ	ミゾコウモリ	Chiroptera	Nycteridae
	ミゾバジネズミ	Insectivora	Solenodontidae
ム	ムカシトカゲ	Reptilia	Rhynchocephal
	ムササビ	Rodentia	Anomaluridae

	動 物 名	(綱・目名)	(目・科名)
メ	メガネザル	Primates	Tarsidae
	メクラウナギ	Pisces	Agnatha
モ	モグラ	Insectivora	Talpidae
	モグラネズミ	Rodentia	Spalacidae
	モズ	Aves	Passeriformes
	モモンガ	Rodentia	Anomaluridae
	モルモット	Rodentia	Caviidae
ヤ	ヤギ	Artiodactyla	Bovidae
	ヤツメウナギ	Pisces	Agnatha
	ヤマアラシ	Rodentia	Hystricidae
	ヤマアラシネズミ	Rodentia	Echimyidae
	ヤマイヌ	Carnivora	Canidae
	ヤマネ	Rodentia	Gliridae
	ヤマビーバー	Rodentia	Aplodontiidae
	ヤモリ	Reptilia	Sauria
ユ	ユビザル	Primates	Daubentonidae
	ユビムスビ	Marsupialia	Phalangeridae
ヨ	ヨタカ	Aves	Caprimulgidae
ラ	ライオン	Carnivora	Felidae
	ライチョウ	Aves	Galliformes
	ラクダ	Artiodactyla	Camelidae
	ラット	Rodentia	Muridae
リ	リス	Rodentia	Sciuridae
	リスモドキ	Primates	Tupaiidae
	隆鳥	Aves	Aepyornithiformes

	動 物 名	(綱・目名)	(目・科名)
レ	レア	Aves	Rheiformes
ロ	ロバ	Perissodactyla	Equidae
ワ	ワシ ワニ	Aves Reptilia	Falconiformes Crocodilia

(P 119 より続く)

びカレントアウェアネスの目的には各号につく Keyword Index が用いられ、さらに早く情報をキャッチするには主要誌のみを対象とした Chemical Titles がある。後者は表題だけからキーワードがとられ、一層検索手段は狭くなっているが、両者とも考えられる色々な言葉から探す必要がある。どれを使う場合でも前書きにある説明を読んでおくと思わぬ失敗を避けることができる。そして使用に慣れることが、解説を読むよりも使用法を身につける最上の方法である。

参 考 文 献

1) 千原秀昭：化学文献利用の手引き，物理化学②，化学の領域 23(5)；521～534，1969。中沢浩一：有機化学文献の調べ方，広川書店，1960。p. 15～22
2) 黒沢正彦：変貌する二次資料，情報管理，13(10)：646，1971
3) 岡野禎二：ケミカルアブストラクトサービス視察報告 情報管理 12(2)，86～95，1969
4) 榛葉毅：CA と情報検索の機械化 薬学図書館，14(3)；77～87，1969
5) 上野景平，宇都宮剛：Chemical Abstracts Service を訪問して，化学の領域 24(2)；138～150，1970

(P 150 より続く)

件について，BI の何月号に収録しているか追跡した。

結 果

(BA 抄録番号)	(BI の収録巻・号・月・年)
#13972	vol. 7—No. 2, Feb. 1971
#13973	" " " "
#13974	" " " "
#13975	" " " "
#13976	7— 3, March "
#13978	7— 1, Jan. "
#13979	7— 2, Feb. "
#13980	7— 1, Jan. "
#13981	7— 3, March "
#13982	7— 1, Jan. "
#13983	" " " "

#13985	" " " "
#13987	7— 2, Feb. "
#13988	" " " "
#13990	7— 1, Jan. "

評 価

BA と同じ月（2月）に発行された BI に収録されているもの……7件
BA の発行月（2月）より1ヵ月前の1月号の BI に収録されているもの……6件
BA の発行月（2月）より1ヵ月後の3月号の BI に収録されているもの……2件
以上の調査により大体の見当としては BA 発行の同月の BI か，またはそれより1ヵ月前の BI をみればよいということがわかる。そして例外的にたまには BA 発行月より後に発行された BI に収録される場合もあるということである。